

第3節 調査の方法

第1項 調査対象者

全国16都県（福島、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、山梨、静岡、三重、兵庫、広島、香川、福岡）の公立・私立高校に在籍する高校1～3年生、計607名。回答者の学年別・性別の構成は次の表Iの通りである。

表I 回答者の学年別・性別構成

	男子	女子	計
1年生	154	165	319
2年生	38	68	106
3年生	57	114	171
学年・性別不明			11
計	249	347	607

第2項 調査方法

質問紙調査を実施した。

第3項 調査時期

平成11年7月から平成12年1月

第4項 調査内容

質問項目を表1-1に示す。

表1-1 質問紙調査の質問内容

1. フェイスシート
2. 自我機能調査票 (EFI-2)
3. 道徳的人生観尺度
4. 感情的冷淡さ尺度
5. 学校適応-脱学校尺度
6. 教師関係尺度
7. 学校での交友関係尺度
8. 友人への同調尺度
9. 親の養育態度と親子関係尺度
10. 生活感情の構造尺度
11. 自己存在感のなさ尺度
12. 問題行動の実態と意識についての尺度
13. 問題行動の被害者となったかについての項目
14. 友人との関係についての項目
15. 親との関係についての項目
16. アルバイトについての項目

1. フェイスシート

学年、性別、年齢、住居形態（一人暮らし、家族と同居、または寮）、同居家族の構成についてそれぞれ尋ねた。

2. 自我機能調査票（EFI-2）

自我機能調査票は、精神分析的自我心理学の観点からベラックによって開発された自我機能評定法を参考として作成された自我機能について測定するための項目である。8下位尺度から構成されている自我機能調査票(中西・古市)を使用した。質問項目は72項目から構成されている。『以下の文章は、日ごろあなた自身にどの位あてはまりますか？それぞれについて「5.あてはまる」から「1.あてはまらない」の中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』という質問文を用意し、72項目それぞれについて5件法で回答を求めるものである。項目内容を表1-2に示す。

表1-2 自我機能調査票項目内容（EFI-2）

<統合・統合機能—支配・有能性>

1. グループの中で、リーダーになることもでき、たんなるグループの一員であることもできる
2. 毎日の生活で規律正しい生活をしている
3. 全力を出して働いていると思う
4. 当然負わなければならない責任はすすんで負う
5. ゲーム（勝負事）には負けるより勝ちたいと思う
6. 自分の期待していたような暮らし方をしている
- *7. 自分は人生で越智こぼれてしまっていると思う
- *8. 自分は物事のなりゆきまかせの生き方をしている
9. 全力投球して生きていると思う

<現実感覚>

1. 夢うつつの状態で歩き回っているような感じがする
2. 自分という存在に実感がもてない
3. 自分の身体が奇妙な感じがして自分のものでないような感じがする
4. 世界が崩壊しているような感じがする
5. 家で食事をする時は、人中で食事をするときほど行儀はよくない
6. まわりの世界との接触をなくしたように感じることもある
7. 自分の目の前にあるものが、ひょっとしたら本当は存在していないのではないかと感じたことがある
8. 他人と話している時、ガラス戸をへだてているように感じることもある
9. 誰かにお前は駄目だといわれると、本当に自分が駄目な人間であるような気がする

<衝動統制>

- *1. ひどく腹がたった時でも、人前ではその気持ちを顔にあらわせないでいられる
2. 仲間にめいわくをかけた時、そのことに対して長い間強い罪悪感を感じる

3. 物事に失敗した時、長い間ゆううつな感情からぬけだせない
4. 時々口ぎたなく、ののしりたくなる
5. 仕事や勉強が少しでもうまくいかないと、ひどくがっかりしてしまう
6. 楽しくなったり悲しくなったり、感情の変化が激しいほうである
- *7. つらい時、悲しい時でも人前ではじっとこらえていることができる
8. 性的な感情が頭からはなれないでこまることがある
9. 不安になるとそれにたえられないで、イライラする

<対象関係>

- *1. 互いに信頼し、助けあえる友人がいる
2. 多くの人と親しくなるのは、あまり好きではない
3. おおぜいの者と一緒にいるよりも、ひとりであるほうが好きである
4. 私は知っている人全部が好きとはかぎらない
5. 常にみんなの注意が自分に向いていないと不満である
6. 他人と付き合っているとき、とかく自分の心が傷つけられやすい
- *7. 自分には、多くの知り合いや友人がいる
8. 他の者から見すてられ、のけものにされているような気がする
9. 人の集まっているところに行くのがおっくうである

<防衛機能>

1. 何年も前の嫌な出来事や恥ずかしかった事をよく憶えているほうである
2. 他の人より、特別きれい好きである
3. まわりの人のために失敗させられることが多い
4. 下品な冗談を聞いて、笑うことがたまにある
5. 他の人に「何でも自分一人の責任だと思って悩む傾向がある」と言われたことがある
6. 心配性である
7. 奇妙な恐ろしい考えをもつことがある
8. 狭い所（便所やエレベーター）にいると出られなくなるのではないかと不安になる
9. 人がこみあっている所がこわい

<刺激障壁>

1. 物音が気になってなかなか寝つけなかったり、すぐ目が醒めるほうである
2. 満員の電車やバスの中で、人に接触するのに耐え難くなることがよくある
3. 衣服の肌ざわりが悪いと、一日中気になって仕方がない
4. 部屋が明るいと寝にくい
5. しばしばはっきり原因のわからない頭痛がする
6. 天候や騒音、臭気など不快な環境にある時、すぐイライラする
7. 私は時々、腹を立てる
8. ちょっとした病気でもすぐ寝込んでしまう
9. 皮膚が良くかぶれたり、かゆくなったりする

<自律的機能>

1. 憶えておかなければならない事柄をふっと忘れてしまうことがよくある

2. いつもなら出来る身ぶりや動作が、時としてうまくできないことがある
3. 読書するのがむずかしい
4. ふだんは、いつも何気なくやっていることが急に難しく感じることもある
5. 自分で自分が無器用に思われてくることがある
- *6. ひまになると、日頃やっておきたかったことに手をつける
7. 自分の好きなこと、興味あることをやりとげるのに何か負担を感じることもある
8. その日の内にやらなければならないことを翌日まで延ばすことが時々ある
9. 仕事をやる気力がおとろえていると感じる

<現実検討>

1. 今までに、ある物事が本当に起こったのか、夢だったのかわからなくて困ったことがある
2. 時たま口に出して言えないような悪いことを考える
3. 物事が現実には起こったのか、自分の心の中だけで起こったのかどうか迷った経験がある
4. たとえ周囲の人すべてが異を唱えても、自分はこれは現実のことだと確信したことがある
5. 幻覚を見たり聞いたりしたことがある
6. 錯覚をおこしたことがある
7. 科学的に説明できない不思議な音を聞いたことがある
8. 実際にいるはずがないのに、他の人間がいるのを見たことがある
9. 自分の要求や願望によって現実を歪めて見ることがある

*逆転項目

斜字は虚偽尺度項目

3. 道徳的人生観尺度

道徳的人生観尺度項目は、秩序、道徳、法律などの社会的規範を守り、礼儀、慎み、理性をもって事物に対応しようとする価値観の程度を測定する項目である。価値観尺度) (辻岡・村山, 1975) のうち、道徳的人生観尺度項目を使用した。質問項目は12項目から構成されている。『以下の文章は、日ごろあなた自身にどの位あてはまりますか? それぞれについて「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」の中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』という質問文を用意し、12項目それぞれについて5件法で回答を求めるものである。項目内容を表1-3に示す。この尺度得点が高いほど、社会のルールや規範に従って生きていこうという道徳的な人生観が強いことを意味する。

表1-3 道徳的人生観尺度項目

-
1. 世の中の秩序に従うことは大事なことである
 - *2. 道徳などを考えたりせずに、自分の生き方を貫きたい
 3. 自分は社会のルールに従って生きていきたい
 - *4. 自分の欲望を実現するためには道徳などにこだわらずに生きたい

- *5. 法律に縛られないで自由に生きていきたい
 - 6. 慎みと知性にもとづいた秩序に従って生活したい
 - 7. 社会の変化は急激にではなく慎重に行ってほしい
 - 8. 礼儀を大事にして生きていきたい
 - 9. 私情を捨て自制しながら生きていきたい
 - 10. 自立した人間として理性に従って生きることを目標としたい
 - 11. 何事にも自己規制が必要である
 - 12. 世間の風潮には流されないで節度ある生活をしていきたい
-

4. 感情的冷淡さ尺度

感情的冷淡さ尺度は、他者の気持ちに共感する程度、感情的に暖かい程度を測定する項目である。情動的共感性尺度（加藤・高木、1980）のうち、感情的冷淡さ尺度10項目を使用した。『以下の文章は、日ごろあなた自身にどの位あてはまりますか？それぞれについて「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」の中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい』という質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。項目内容を表1-4に示す。この尺度得点が高いほど、感情的に冷たい傾向があることを意味する。

表1-4 感情的冷淡さ尺度項目内容

-
- 1. 私は人がうれしくて泣いているのを見ると、しらけた気持ちになる
 - 2. 私は他の人の涙を見ると、同情的になるよりも、いらだってくる
 - 3. 私は不幸な人が同情を求めるのを見ると、嫌な気分になる
 - 4. 私は友人が悩みごとを話し始めると、話をそらしたくなる
 - 5. 私はまわりの人が悩んでいても平気でいられる
 - 6. 私は人がどうしてそんなに動揺することがあるのか理解できない
 - 7. 私は他人が何かのことで笑っていても、それに興味をそそられない
 - 8. 人前もはばからずに愛情が表現されるのを見ると私は不愉快になる
 - 9. 私はまわりが興奮していても、平静でいられる
 - 10. 私は映画を見ていて、まわりの人の泣き声やすすりあげる声を聞くと、おかしくなることがある
-

5. 学校生活に対する意識尺度

この尺度は、学校に対してどのような意識をもっているかを測定する項目である。学校生活への適応度の高さを測定する尺度（15項目）と、仲間との連帯志向の強さを測定する尺度（11項目）から構成されている。『次のことがらについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか？「5. あてはまる」から「1. あてはまらない」までの中から、もっともあてはまるもの一つを選んで、数字に○をつけて下さい。』と質問文を用意し、それぞれの項目について5件法で回答を求めるものである。質問項目を表1-5に示す。この

尺度得点が高いほど、現在の学校生活に適応的であり、仲間との連帯志向が強いことを意味する。

表1-5 学校生活に対する意識尺度項目

<仲間志向-孤立志向尺度>

1. 友だちと一緒にいると楽しい
2. 友だちとできるだけ交わるようにしている
3. 親しい友だちがいる
4. 勉強以外のことを友だちとよく話す
- *5. 友だちにはあまり大事なことは話さない
- *6. 友だちとのつきあいがうっとうしいと思うときがある
- *7. 仲のよい友人グループを持っていない
- *8. 友だちとのつきあいよりも、自分のことを大切にする
- *9. 友だちと一緒にいるより1人でいる方が気が楽だ
- *10. 友だちと一緒にになって勉強や遊びのグループをつくるのはいやだ
- *11. 友だちから相手にされなくてもかまわない

<学校適応-脱学校尺度>

1. 今の学校生活に満足している
2. 学校での勉強は、将来の生活や職業に役立つと思う
3. この学校に対して親しみを感じる
4. 先生には安心して何でも相談できる
5. 学校で受けている授業はよく理解できる
6. 学校の規則はよく守る方だ
7. 学校の先生に対して親しみを感じる
8. この学校の生徒であることを誇りに思う
- *9. 学校に行きたくないと思うことがある
- *10. 学校に対して反発を感じる
- *11. 学校の授業は時間のむだだと思うことがある
- *12. 授業中でも、おもしろくなければ別のことをしていてもかまわないと思う
- *13. 授業を受けているのが苦痛である
- *14. 学校を休みたいという気持ちになる
- *15. 私にとって学校は居心地が悪い

*逆転項目

6. 教師関係尺度

この尺度は、教師との関係について測定する項目である。学校生活適応感尺度（高瀬他，1986）のうち、教師関係尺度を使用した。この尺度は6項目から構成されている。『次のことがらについて、あなた自身にどのくらいあてはまりますか？「5. あてはまる」から